



通 信



VOL. 8

令和2年4月1日

作成：長岡正宏

「和」から「話」へ。「和」なくして「話」はない。そして「輪」が生まれ、「愛」が育まれる。

敬天愛人



志と目標の違いを
考えてもらいたい！

道心探求

戦後、日本はアメリカ式の手法である「目標を設定して突き進むこと」を教えられてきた。ビジネスやスポーツの世界などでも、この手法が主流となって成果を上げてきた。しかし、今では目先の金儲けや抜けない出世等も後先構わず突き進み、その結果、高い精神性や道徳性が抜け落ちた。近年、自己中心的で要領の良い薄っぺらな人間が増えてきたように感じる。

元来日本人は祖父母や両親あるいは師の後姿を見習い、今日一日を大事にし、毎日毎日自分の所作を丁寧に、心を込めて一生懸命磨くことで自分を上げてきた。その積み重ねによって未来があるという考え方を持っていたのである。常に「お天道様」も見ていた。自然と人間としての深みが身につけていたのである。合気道の稽古法は、同じ技の繰り返しだ。丁寧に稽古すれば人格形成に役立つだろう。

【行事予定変更のお知らせ】

5月3～4日に予定していた第15回広島県地域社会合気道指導者研修会は下記の通り延期になりました。

○日時・会場など

日時：10月10日（土）10:00～16:00

10月11日（日）10:00～16:00

会場：広島県立総合体育館武道場

講師：未定 参加費：未定

主催：日本武道館・合気会・全国都道府県立武道館協議会・広島県立総合体育館

※県連盟主催の秋季特別講習会は中止



～ワンポイントアドバイス～

手の中心である労宮を自分の正中線に持ってくれば腕は生きてくる。逆に労宮が正中線から外れれば外れるほど腕は死んでいくと思えばいいだろう。分かっているようで難しいものだ。実際に手を掴まれたり、正面打ちを受けたりすると目の前の対処に囚われて出来なくなる。見取稽古なので焦る必要は全くない。丁寧に稽古すれば良い。ここで注意してもらいたいことは**労宮が腕を操作するときの動きの中心ではない**ということだ。

労宮は正中線に！



3月22日にお彼岸ということで北平道場長のお墓参りに行ってきた。あっという間に三か月が過ぎてしまったような気がする。

合気の旅

写真は広島市中区にある新天地公園である。昭和34年ごろ、本部道場で稽古されていた住田芳寿先生が公園に畳を敷いて合気道の稽古を始めた。青空道場である。まだ、周りにビルがなく、お好み焼き屋の屋台が並んでいた頃である。まもなく北平雅一道場長が稽古に参加された。そして、新天地公園から下河内道場、県立体育館武道場へと稽古の場が移り変わっていった。当時はどのような稽古をされていたのだろうか。新天地公園の近くを通る度に、感慨深いものがある。この新天地公園は、我々の「北平塾」発祥の地と考えても良いのではないだろうか。尚、北平道場長は晩年「畳なんか敷いちゃあおらん」と言われていた。もう当時の様子を知る人はいないのだろうか。



～開祖の言葉～

心ある人は合気の声をきいて頂きたい。人を直すことではない。自己の心を直すことである。これが合気なのである。

「合気道新聞」昭和49年4月掲載

